



人が来ない!!

連合祭典のゆくえについて

連合祭典は中止に……

概要

- 旧暦の六月（現在の7月下旬）に隔年で行われる。
 - 江戸時代（承応）に起こった水利問題（雄蛇ヶ池）や干ばつが円満に解決したことを神に感謝し、当時の東金郷6ヶ村（大豆村、台方村、辺田方村、堀上村、川場村、押堀村）がそれぞれ楼車を繰り出して参加したことが始まりとされる。
 - 現在は9つの地区（岩崎区・新宿区・谷区・堀上区・上宿区・川場区・臺方区・押堀区・大豆区）が行っている。
 - 千葉県代表の祭りとして2年連続皇居前のパレードに招待されている。
 - それぞれの地区にお囃子がある。
 - 山車・屋形は前後の車軸間隔が狭い東金独特の構造 ● 方向転換、花向けなどに前輪を高く持ち上げる。● あまり山車は揺らしてはならない（位が高いから）
- 1 日目…町中巡行のち御飯宮へ 宮入後に提灯交換が行われ各山車に全町の提灯が灯る。
2 日目…神輿の露払いをしながら再び町中巡行 花火

問題点

- 神事であるために、法律上の問題から宣伝ができないため、東金市民であっても祭り自体を認知されていない。
- 祭り自体が開催できていないので余計祭りと関わる人が減少している。
- 東金市のみならず、全国的な日本人口減少 ● 地域社会の結びつきの低下 ● 祭り自体が過去のものと言う認識 ● お祭り自体の見せ場が少ない。
- 役割が特定の人に集中＝閉鎖的

改善策

- SNSを活用して祭りについて知ってもらう機会を増やす。
- お祭りの見せ場を増やしてタイムテーブルで複数掲載する。
- 地域の中高生に協力を要請して、地元の連携を深める。

(NS2022-040 萱生啓介)

【地元の人びとの声】

今回、授業で東金市の日吉神社連合祭典の運営を行う予定であったが、生憎今年も中止になってしまった。しかし、何人かの地元の方々に東金市の現状、過去に執り行ってきた連合祭典のことについてお話を聞くことが出来た。お話を聞かせて頂いた地元の方によると、東金市全体の人口は昨今の社会問題の例に漏れず、少子高齢化が進んでいるという。現在東金市にいる子供の数は、昔に比べて三分の一に減ってしまったそうだ。過去に開催された連合祭典の映像や写真を見ると、子供の数がかなり多かったことがわかる。地元の方々のお話を伺っている際に、祭りの運営にあたって若い人の協力は不可欠であると思った。祭りの運営は主に地域の消防団や、婦人会が要になるという。そして、その消防団や婦人会の勧誘もお祭りである事が多いそうだ。しかし、ここ数年祭りが開催出来ていない事で、この様な地元のコミュニティに入る人や機会が失われている。それだけでは無く、近所の事は面倒だとやらない人が多いそうだ。なんと、婦人会の最小年齢は50代の方であるという。その為、お話を聞かせて頂いた地元民のNさんは、地元の人で無くとも祭りの運営や地域のコミュニティに入って欲しいと、また、地元民ではない無関係者が入っていく事は難しいからこそ広報活動などで接点を作っていく事が大事なのだと言っていた。祭り開催に際し、まだまだ問題視される点はこれだけでは無い。だが、かつての賑わいが東金市に戻るようこの大学に居る数年だけでも、地域のコミュニティに入ってみたり、祭りの運営に参加してみても良いのではないだろうか。(TW2022-052 笠倉瑠央)



(http://potiko.fc2web.com/comment/kanto/togane/togane_3.html より)

東金は見どころいっぱい



Santos cafeは東金駅から徒歩3分の所に位置しています。このカフェは江戸時代に創業した「多田屋」という書店の跡を利用しており、建物は国の有形文化財に登録されています。お店の店主は優しい雰囲気です。店内には東金市にまつわる資料やポスターなどが貼られており地域に密着したカフェであることが分かります。メニューはカレーにパスタ、ケーキセットなど多様です。カウンター席、テーブル席があります。ゆったりとした雰囲気です。リラックスする事ができます。



八鶴湖は、周囲の住民の憩いの場になっていました。子供たちが元気に遊んでいたり、ペットの散歩に来ている人がいたりしてほっこりした気分になりました。湖の周りを歩けるようになっていました。そこにあるベンチに猫が日向ぼっこをしていました。東金駅周辺は発展している様子が見取れますが少し奥に行くと景色がガラッと変わり田舎ならではの感じがしたので、とても面白かったです。八鶴湖中心には神社がありそこには弁財天が祀られており、湖を静かに見守っているようです。(TW2022-013 菅野みらい)